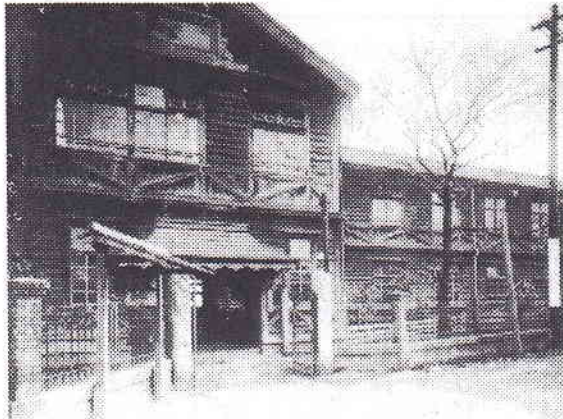


大井第一小学校

同窓会会報7号



大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2005年3月



大正・昭和の正門

現在の正門



大井第一小学校は 今年130周年を迎えます

同窓生の皆さん!!

今年には母校大井第一の創立130周年記念の年。この秋、11月には同窓・祝賀会を開きます。双手をあげて輝しい歴史を祝いましょう。

詳細は後日、案内状でお知らせします。是非ともさそい合わせてご参加下さい。

古い写真、資料を探しています

大井第一小学校は、昭和20年に校舎が全焼し全てを失いました。第一小学校は私達の心の中に「思い出」として残っていますが、これを「私たち」として第一小に残したいと考えました。今年130周年を機に昔の校舎、運動会、遠足等、学校に関する写真、資料を収集し、会員の皆様のご協力を得て学校に提供したいと思っております。左記の要綱でご送付ください。ご協力のほどお願い申し上げます。

○写真、資料を着払いの宅急便でお送りください。

○複製（写真から写真）、資料のコピーでも結構です。

○お預かりして、複写を行い、1週間程でお返しいたします。

送付先 〒140-0014 東京都品川区大井 1-53-9

森 秀雄宛（昭和34年卒）写真店で

創立130周年を迎えるに当たって

同窓会会長 津田 照通

私が入学したのは昭和8年。そして昭和10年5月に60周年の記念式典が行われました。昭和50年11月に100周年。それから110周年、120周年と過ぎ、今年には11月19日に学校側の130周年記念式典が行われます。これとは別に同窓・祝賀会は11月頃開催する予定です。現在のような同窓会が組織化されたのは120周年記念の時でした。平成8年10月に第一回の総会を開催してから10年、苦勞して作り上げた名簿も住所変更が多く、連絡を頂いた方はこれを訂正し出来る限り正確な原本を作って保管して居りますが、昨今各種名簿が悪用される事例が多くその発行を差し控えて居ります。年一回発行の会報も皆様のご協力では今年7号となりました。ク

ラス会、同期会のニュース等もお寄せ下されば掲載致しますのでご投稿下さい。尚、同窓会の運営に理事としてご協力下さる方を歓迎しますのご連絡頂ければ幸いです。

改革の中の百三〇周年

大井第一小学校長 櫻橋 賢次

本校は、コンピュータ教室は他校に先がけて設置されましたが、ランチルームや、畳の和室などもなく、施設的には、私が教師になった昭和四〇年代の学校そのものです。しかし、教育制度や教育内容の面で今、学校は大きく変化しています。

とりわけ、制度面では、品川区が全国に先駆けて取り組んでいる学校選択制度や学校の外部評価制度の実施、また内容面でも、制度と連動した区独自の学力定着度調査の実施と公表、特色ある教育活動の推進など様々な改革が進んでいます。さらに、区独自のカリキュラムによる小中一貫教育を進めるための準備も始まっています。本校もこうした改革の中で、開かれた学校教育を展開し、子どもたちに基礎・基本を確実に身につけさせ、豊かな心を育むよう教育活動の充実に努めています。

平成十二年度から始まった学校選択制に伴って、本校は毎年学級数が増え、来年度は全二十四学級となる見込みです。区内で最大規模の学校です。本校の教育活動が保護者や地

域から評価、支持されていることを重く受け止めております。本校への希望理由を尋ねると、よい学校と聞いているから、祖父母兄弟が出た学校だからなどの答えが返って来ます。このような評価を頂けるのも永年に渡って教職員と一七八〇七名の卒業生、そして保護者、地域の方々が一体となってご尽力されてきたからだと実感しております。評価をさらに磐石なものにし、よき伝統を引き継いでいくことが大切であります。本年は開校一三〇周年、これを契機としさらに努力してまいります。皆様方のご支援よろしくお願ひします。

『懐かしい先生方のお便り』

「尊くも懐かしい思い出」

旧職員 S 32 / 40 金子 公子

私は、昭和三十一年からの八年間、伝統ある大井第一小学校に勤務させて頂いていただきました。当時は、松組から花組までの六クラスもあったマンモス校でしたが、保護者の方々は勿論のこと、実力ある諸先輩や才能豊かな子ども達に囲まれ支えられて、生き生きと輝いた教師生活だったと、その幸せを今さらのように噛みしめています。

退職した今は、ボランティア活動

の際に大井第一小学校前をバスで通るのですが、その度に、尊くも懐かしいあの日あの時が、昨日のことのように思い出されてなりません。

理科の実験学習の前日には、教師実験をしておくのが通例でしたが、理科準備室は何時も先生方との場所とり合戦となったあの日々も、私の楽しい思い出となっています。

ニュータウン開発の地へ、バケツを片手に教材用の赤土を掘りに行ったあの日、運動会での創作ダンスに汗を流したり、創造活動や発表の場を少しでも増やそうと『学年芸芸会』が工夫されて、皆で智慧を仕上げたあの時のこと、授業中に納得できないとすぐに「質問!!」と叫んで鋭く追求してきた子ども達のあの眼、どれもこれも、私の忘れ得ぬ尊い宝物ですし、懐かしい思い出です。

毎週土曜日の午後は、兼任相談員として鈴ヶ森中にあつた相談室へ、昼食もそこそこ大井第一小学校横の坂道を駆けおりましたことも、鮮やかに甦ってきます。

数々の思い出は、大井第一小学校でしかできなかったこと、大井第一小学校だったからこそできた実践だったと、その尊い一つ一つに、今、改めて感謝している私です。

大学時代の教育実習を大井第一小学校で学んだ私が、再び三十代の教師時代を豊かに学び育てていただいた大井第一小学校は、尊くも懐かし

い思い出の宝庫ですし、一生忘れられない私の誇りです。

「六寸の皿」

旧職員 S 33 / 45 立元 敏雄

辞令一枚で次の勤務校に赴任しなければならぬ教師は、多くの子ども達との出逢いや別れはつきもの。別れに涙を流し、出会いに胸のときめきを覚える。幾度転勤をくり返しても、新任校への不安は同じで初心にかえって赴任し、新しい子ども達や地域との出逢いとなる。只管期待に添うべく努力精進するだけで、そこでまた喜びや悩みをくり返すうちに、すっかり当地に馴染んでしまう。

N君は、五・六年と二年続けて担任した子どものひとり、色白で温和・真面目・何事にも几帳面に処理していたが、目立つ存在ではなく、わりに無口であったという記憶がある。祖父・父親共に美術家として精進しておられたようで、彼はそんな環境の中で育ったのか、思いやりがあり、自ずと体得した美術的意欲で、係の仕事など実によく処理し励んでいたことを思い出す。

お互いが友人に悩んで便りをよこし、高校、大学合格の電話のベル、結婚して子供誕生の喜びを便りしてくれる教え子たち、それぞれに心を通わせる中で、彼とのつき合いが途絶えていたある日のこと。

私が所要で留守した折、立派な青

年の来訪に家内が応待すると、それはN君で、K市で陶芸の道を極め精進することになり、その釜で焼いた重厚な六寸の皿を使つて下さいといつて紙包みを渡された。部屋に招き入れようとしたが他にも廻るところがあるので失礼する。先生に宜敷くといつて早々と帰つていつたこの事。

彼がどんな決意をして陶芸の道に進むようになったのか、どんな思いで作品を持ってきたのか、今までのように歩んできたのか、と考えるのと勿体なくて皿は飾っておいたが、日常使うことが彼の陶芸への励みになるかと考え、今も大事に使わしてもらつてゐる。

歳月の流れは早くあの日から二十余年余り、彼との音信は絶えているが、長く険しい陶芸の道に精進している彼に幸あれと祈るばかり。

「四十年前のこと」

旧職員 S 38 〓 48 宮田 孝夫

大井第一小、懐かしいひびきが胸をうちます。昭和三十八年から十年間過ぎました。

学校から駅まで十五分、武蔵野館のポスターを横目に見て通り、阪急デパートに入るとブレイブスのポスターと歌が流れていました。

パソコンもファックスもデジカメもない時代でした。

教室にはテレビなどなく、講堂

(体育館ではなくて後ろにひな壇がありました)に白黒テレビがあるだけでした。理科の時間になると、三年生全員で講堂に行つて床に坐つてテレビを見ました。

七十歳を過ぎた今でも、あの頃同じ時間を過ごした方々・子ども達の顔が次から次へと浮かんできます。

故神崎三郎先生は、校舎を明日取り壊すという前日に、回りの工事でほこりがいっぱい教室を子ども達といっしょうけんめいに磨き上げていました。明日壊すのだから今日一日ぐらいきれいで過ごしてもらおうのだと話してくれました。どうせ壊すのだから掃除なんかしなくてもよいと考えていた私には、今でも心に残る言葉です。

「写真クラブ」でわからなくなつた時、森商会の池田さんがかけつけてくれてフィルム現像の手順を教えてくださいました。地域の方々も暖かく接してくれました。

にじみ出るユーモアとひょうひょうとした味にちよつとでも近づきたいといつも思っていた笹岡文男先生：数えきれないほどの方々との触れ合いのあつた十年間でした。

「大井第一小の思い出」

旧職員 S 40 〓 50 S 61 〓 H 1 後藤 正典

私が大井第一小に勤務したのは、昭和四十年四月から同五十年三月ま

で十一年間です。大井第一小は優れた先生方が多いと言われた学校のようですが、当時も、同年輩の四十年代前後の層の教師が非常に多く、活気に満ちあふれた教育活動が展開されていきました。私はそんな雰囲気の中で児童と共に過ごせたことを誇りに思つてゐます。

校務分掌の一つ「学校図書館部」に私は所属し、数人の部員メンバーで、「よい図書の選び方」「読書への興味の持たせ方」「読書時間のとり方」などを研修しあい、教室での指導に当たりました。また読書感想文の指導にも全校的に力を入れるよう推進、一方そのコンクールにも参加、区・都・全国の段階で優秀・優良に入選したりしてその成果を見ることが出来ました。

また印象深いことは、大井第一小が旧校舎から鉄筋の新しい校舎に生まれ変わる時期に在職したこと、工事の度に移動することが大変でした。先に述べたように学校図書館を担当していた関係で、図書を管理するために何千冊もの本と一緒に移動するので、教室が足りず、旧プールが地下室となつてそこが図書室となつたり、新校舎が完成して図書室が出来て再び本の引越、その都度図書の整理と管理に精出したものです。

私が大井第一小へ再び勤務させていただいたのは、教頭を拝命し昭和六十一年から平成元年三月までの三

カ年です。学校内の勝手は良く知つていまして安心して勤務出来ましたが、立場が以前と違いますので毎日が緊張の連続でした。しかし校長先生はじめ全職員の方々の協力を得、輝かしい伝統ある大井第一小の歴史を傷つけることなく、その職務を果たして定年退職することが出来ました。現在は大井第一小PTA顧問として皆様に時々お会いして学校の様子を伺つております。

「思い出」

旧職員 S 41 〓 51 榎本 昭典

昭和四十一年より五十一年まで十年間勤務しました。その当時は新校舎建築のため校庭にプレハブ校舎をつくり学習をしていました。体育の授業は浜川小の隣のグラウンドまで駆足で行つたものでした。夏は千葉内房の岩井海岸で民宿に宿泊水泳をしました。又箱根は冠峰楼ホテル、のちに品川林間学園を利用して夏の集団生活を営みました。

クラス編成も松竹梅月雪花と他校と趣が違った編成でした。多摩動物園への全校遠足は縦割りで大勢の数の児童が一日楽しく過したこともありました。又開校百周年にあたり盛大な記念行事が色々行われ、五十一年後に開くカップセルなども学校全体で作製した覚えもありました。

今考えると私の教員生活で一番活

気があった充実した時代であったとつくづく思います。断片的な思い出を書きましたが、大井第一小の益々のご発展を心からお祈り致します。

「思い出二題」

旧職員 S53 S H1 柳村 公英

月日が経つのは、早いものですね。私が、十一年間お世話になった大井第一小学校を去って、一六年が過ぎました。この間も、同窓会会長様から会誌を送って頂き、感謝いっぱいです。誌面を読む度に、あきる野の地に在っても、当時のことが思い出されてきます。

その一つに、大一ファイターズ設立があります。当時の黒田校長先生の指導を受け、ささやかではありましたが、少年サッカーの種をまきました。土田・津村・大橋先生、山本さん・内藤さんをはじめ、多くの保護者の協力で、今日の基礎ができたのだと思います。

かつてのサッカー少年も、今では日本の明日を築くため、それぞれの個性や特技を生かして、日夜仕事に精励している事でしょう。また、人の親として、子育てに奮闘中の方もいるかもしれませんね。

当時三〇代だった私の齢は、五〇代の半ばになりました。いつか、当時を懐かしみながら、杯を交わしたいものです。

また、校内研究発表会も思い出の

一つです。十一年間に、四回もの対外向けの発表に携われた事は、とても幸運でした。児童観・指導観・教材観・評価観；等、先輩の先生方の指導を受けながら、研究授業に臨みました。その度に、自身の授業力が向上したように思われます。

中でも、小林校長先生の時代、地域に根ざした教育の推進（地域の素材を教材化し授業に生かす）に取組みました。ここでは、郷土資料室を作る等、地域の皆さんに大変お世話になりました。大井の文化・歴史；を学ぶ度に「大井 わが町」が大好きになりました。

先日、大上教頭先生から郷土資料室のお話を聞き、とても嬉しく思いました。

これからも、素晴らしい会員の力を結集して、大井第一小学校同窓会が益々発展することを、多摩の地より願っています。

「大井第一小を

巣立った皆さんへ」

旧職員 H1 S 9 曾根佳代子

大井第一小学校にお世話になっていたのは、今から十六年前から八年前ということになりました。一年目は、一年生の担任になりました。不安な一年生を教室で迎えてあげようと、大森駅から学校まで毎朝走って行っていました。この道は上り坂なので走っては立ち止まり、また走っては

立ち止まりとハアハアしながら四月は通っていました。あの時の一年生は、行儀がよく、話もしつかり聞ける子ばかりで、私もニコニコと毎日笑顔で過ごすことができました。

その後も、いろいろな学年の子とも達とたくさん勉強しましたが、誕生日会のことや今一番思い出されるキックベースやラケットベイスなども子ども達の中に一緒に入りました。思い切りボールを飛ばし、思い切り走り汗をかき、少しはかっこいいところを見せられたかなと思っと思っています。巣立った皆さんも勉強の内容より、きつと遊んだことだけが思い出されるのではないでしょうが。

あの頃は、目のクリクリした可愛い男の子も今では、きりつと鋭い目つきの青年となり、また、女の子もきれいになったことでしょう。外見だけではなく精神面も大きく成長した皆さんは、自分の目標に向かって努力している時でしょう。これから長い人生、いろいろなことにチャレンジしながら自分らしく生きられる道を探してください。私も今だに、探しものをしながら生きています。

「なつかしい大一の日々」

旧職員 H4 S 14 椎名 幸子

私は平成四年から十年間、大いでお世話になりました。都会では珍しい土の校庭に、たくさんのお木々。中

には実のなる木もありました。どこからかやって来て卵をたくさん産むカエル；は見たことがないのですが、ひょうたん池にあふれるオタマジャクシ；自然いっぱいの大いには元気で明るい子ども達がたくさんいました。そんな子ども達の笑顔を、今でもよく思い出します。

大いでは色々な経験をさせていただきました。百二十周年では、一週間ものお祝いイベント。ワールドタイムでは、様々な国の人と文化に触れ、世界の広さを味わいました。また私自身、図書にかかわる仕事をさせていただいたことが一番の思い出です。畳を寄附していただき、机、いすを新調して、たくさんのお本を揃えた図書室で、今でも子ども達が楽しく読書していることを願っています。

「百二十周年の思い出」

旧職員 H6 S 13 三山 明子

平成六年四月から七年間、大井第一小学校に勤務しました。懐かしい思い出がたくさんあります。

着任した平成六年は「百十九周年」の年で、記念バザーや「百二十周年集会」などが開かれました。たしかその年の卒業生の人数が「百十九名」だったことを覚えています。

私は三年松組担任で、社会科の時間に「タイムスリップ！むかしの大井第一小学校」という劇を作りました。

た。子どもたちと来迎院を訪ねてご住職にお話を伺ったり、卒業生に当時の学校の様子をインタビューしたりしたことを懐かしく思い出します。記録によると、学級の保護者だけでも十一名の卒業生がいました。

周年行事を通して地域の方とも知り合うことができました。特に、当時の同窓会長でいらした岡田一郎さんは、いつもにこにことして穏やかで、私にも気軽に声をかけてくださり、また、「杜の哲学者（ミミズクの像）」の制作者である伊東傀先生と一緒に訪ねたこともあって、印象深い方です。式典当日に椅子の並べ替えを手伝ってくださったことも忘れられません。本当に優しい方でした。

長い間ずっと地域に守られてきた大井第一小学校。今年は、もう百三十周年を迎えるのですね。月日のたつのは早いものです。

この三月で、大井第一での最後の



劇「タイムスリップ！むかしの

大井第一小学校」

教え子が卒業します。これですっかり大井第一と縁が切れてしまうようで少し寂しいのですが、いつまでも地域に見守られ、地域に誇れる学校でありますように願っています。

「サンタクロースは、 やっぱりいた!!」

旧職員 H6513 大崎 尚美

「今年はサンタさんに何をお願いするの？」と母（私）は、二人の子どもに尋ねてみる。弟は、おもちゃ屋さんの最も喜びそうな値の張る目玉商品を今年も欲しがった。一方、姉は、百円ショップで見つけたくまの人形。

さて、クリスマスも近づいたある日、小学校二年生の娘から、「サンタクロースって、本当にいるの？」と聞かれた。

「毎年ちゃんと来て、プレゼントをくれるじゃない。いるのよ。」と答えると、納得した表情の娘。

今年こそ、サンタクロースに会いたいという気合満々の姉弟は、サンタさんのために、クッキーを焼くと決意した。私は忙しい中、その準備と粘土遊びのように楽しんだ後の片付けでへとへとになりながらも、「きつと、サンタさんは喜ぶね。」と雰囲気盛り上げる。

焼き上がったクッキーを窓際に置き、お願い事を書いた紙を窓に貼って眠った子どもたち。ここからが神

経を使うところ。何枚も焼かれたクッキーを少しずつかじり、二つのプレゼントをそっと置く。深夜、ぐっすり眠っているか、何度も見て実行する。（父）

クリスマス朝。「やったー。サンタさんは、クッキー食べていってくれた。」と大喜びの二人。まだ、しばらくは夢のあるクリスマスが送れそうです。焼きすぎて残ったクッキーを、「お父さんにもあげるから、いっぱい食べてね。」の言葉に、父は苦笑いでした。

『同窓生の想い出』

故木村先生と歩む

「だるま会」

昭和33年卒 天野 敏彦

「だるま会」とは、昭和三十三年卒業のとき、六年生担任だった木村先生を囲むクラス会です。「だるま」とは、在校時代の先生の体形から、密かに仲間どうし呼び合っていたものが、いつからとはなく、クラス会をこの名称で呼ぶようになりました。卒業後、しばらくは互いに疎遠のときもありましたが、年令を重ねる中で、生活が一定の軌道にのり、子育てが一段落した頃から、再会をはたすようにして、活動を定期的に行うようになり、今年で三十八年目を迎えます。先生とは、毎年一回必

ず「だるま会」に出席いただき、近況報告をしたり、二年に一回は、一泊旅行などをして交流してきました。童心にかえり、昔話に花を咲かせるだけでなく、時には、人生の悩みや子育てのアドバイスをいただきたいと、先生には、この会を育てていただきました。あるときは、先生の学校での研究会に出席して、当時の教育事情を学んだり、先生の著書「たねをまいて」の出版記念会に出席して、先生の人となりに接し、さらに先生との親しさを増していきました。こうして長く続いてこられたのは、先生の人柄によることが多いのですが、さらに、薫陶を受けた教え子の仲が良く、互いに連絡をとり合う人が多いことも関係しています。これからも「だるま会」が続いて行くことに何の疑いもいかなかったのですが……。

昨年の十月、先生の訃報を知り、通夜に集まった者に、突然の知らせは信じ難いことでした。思いかえすと、木村先生は、理科の先生らしく、自然を愛し、それを観察する傍ら俳句を詠む、風流人でもあられました。その姿のなかに、教え子を愛し、卒業後も忘れることなく、心にとめ、声をかけるやさしさが、この「だるま会」を、育ててくれました。

木村先生は、思いがけず、「遠い存在」になってしまいました。が、「だるま会」の仲間が、先生亡きあとも、仲良くし、会を続けていくこ

とが先生への恩返しになることを信じて、これからも活動していきます。

「だるま会」一同

昭和3年卒 長谷川房雄

大正13年秋から昭和2年秋、文京区西片新築入居までの大井鹿島町時代は、老生約90年の既往を顧みて、最も心に残る大切な思い出でした。貴校及び師第皆々様の益々のご盛運を祈念申し上げる次第です。

昭和30年卒 高橋 和義

昭和30年に大井第一小学校を卒業した私は、昨年還暦を迎えました。同窓会会報の存在も知らずにいたので、昨日6号の会報が郵送されて来て、とても懐かしく50余年前を思い出しました。「懐かしい先生方のお便り」の原先生には驚きました。

私は福島の大井第一小学校2年生の時に、大井第一小学校に転校して来ました。その時の担任の先生が原先生でした。確か、小さくて太くつて原節子（女優）似の髪型で、とても優しいお母さんタイプの先生でした。

当時は運動靴が無く地下足袋を履いて、手作りの三角帽子を被って運動会で、「森の小人」というダンスを大勢の前で、先生と一緒に興奮して踊りました。

3、4年生は学卒新人で小柄で細

身の女性でした。良く私達が困らせては教壇の上で泣いていた小坂先生でした。

山の手線の大崎駅近くに住んでいて、友達5人位で夏休みに遊びに行きました。それ程私達には又々身近に感じられた優しい先生でした。

ところが5、6年生になると、恐い男の先生が担任になりました。背が高く、太縁のメガネをして、目鼻立ちがすっきりした男前の波木井先生でした。4年間というものの自由気ままに楽しんで来た私には、とても苦手な先生でした。

何度かピンタを貰いましたし、授業中に黒板消しを投げつけられた事もあり、自分の悪さにも気付かず、益々大嫌いな先生でした。

卒業間近のある日、私のノートに「卒業おめでとう！かたつむり」と書かれていたのに気付きました。それからの短い数か月で私はとても良い生徒に変身出来ました。今でも波木井先生には感謝しております。小学校の先生方の想い出が、校庭の一番奥で私達を見おろしていたヒマラヤ杉と卒業式の仰げば尊しの涙と共に、続々と湧き出して今夜はとも眠れそうにありません。

大井第一小学校の思い出

昭和35年卒 米山 一男

最近女優の吉永小百合さんが、テ

レビに出演して今年還暦を迎えるとの話しをしていましたが、年代の近い自分としても深い感慨を覚えませんでした。

昭和29年から昭和35年までの六年間の、小学生時代の前半はラジオの時代で、一年生の時に二部授業（ベビーブームの時代で校舎が足りなかつたのです）の時は、自宅で教育放送を授業代りに聞いていた覚えがあります。

又、色々なラジオの児童劇：紅孔雀、少年探偵団：等々を胸を躍らせて聞いたものです。

高学年になってテレビが家に入り、ラジオを余り聞かなくなつた頃、赤胴鈴之助が始まりましたが、その中で本名と同じさゆりと言う役で出演しており、出演者の紹介で「さゆり：吉永小百合」と言う部分は今でも良く覚えております。

又、今でも良く覚えているもの一つに小学校で初めて食べたものの数々です。

一年生の入学式で出されたみかんの缶詰と、ゆであずきの美味しさは半世紀たった今でも鮮明によみがえります。

給食の時に出された粉ミルクは、嫌いな人が多かったのですが、私は大好きで余ったミルクをおかわりした事もありました。

六年生の頃には、土曜の午後には六年生全員の補習授業と言うのがあり、給食が無いので、皆で近くのパ

ン屋さんでコッペパンを買い、パンに切れ目を入れてもらい、そばの肉屋さんでコロケを買いソースをかけてもらい、はさんで食べましたが、揚げ立てのコロケとソースの味が何ともたまらないもので、誰が考え出したものか今思い出しても感心します。

卒業して45年経ちますが、忙しいだけの毎日を過す今、ゆつたりとした時間が流れたあの頃が、たまらなく懐かしく思われます。

恩師・宮田孝夫先生

昭和42年卒 高橋 麗子

「小学校の思い出」という原稿依頼をいただき、小学校の事を思い返してみて自分ながら驚きなのは、大井第一小学校を卒業して四十年近い歳月が流れたというのに、いまだに校歌を覚えていて、ということですが。卒業以来本当に疎遠になっていて小学校の校歌がまだ歌えるというのは、それだけ大井第一小学校が私の中で大きな忘れがたい存在となっているということだと思います。なぜならここで私は人生で最初の恩師にめぐり会えたからです。

その恩師とは「宮田孝夫先生」です。三年生と四年生の時に担任をしていただきましたが、先生が存在が、私の人生を決めた、といっても大げさではないのです。先生は誰にでも優しく穏やかに接していらっしゃい

ましたが、かなり臆病だった私は、その先生の優しさ、穏やかさの中で、ようやくのびのびと(少しのびのびし過ぎた時もありましたが)安心して小学校生活を過ごせるようになったのでした。先生にめぐり会えなければ、弱虫の私は暗くウジウジした小学生のまま六年間を過したかも知れません。以後の人生も明るくのびのびと生きることは出来なかつたと思います。またこんな風に小学校の思い出を語ることもなかつたと思います。自分らしく自信を持って明るく生きることの素晴らしさを教えてくださった宮田先生には感謝してもし尽くせません。本当にありがとうございます。ございました。どうぞいつまでもお元氣でお過ごし下さいませよう、心から御祈念申し上げます。

大井第一小学校へ

昭和45年卒 中村 正彦

2005年元旦、富士山の白き姿が遠望できる青空のもと、いつもの年と同じように、家族みんなと鹿嶋神社へ歩いて初詣に出掛けた。

大井の三ツ又にある家から、池上通りを歩いていく。決まって正月と盆の年二回くらいしか、ここ大井の実家に帰省してこない身としては、道中の変貌ぶりが気にかかりもする。高く大きな建物が目につくようになった。かくいう実家も十三年ほど前に、昔ながらの一民家から、七

階建てのマンションへと姿を変え、当時と変わらぬものといえば、隣接する庚申様くらいであろうか。

大井第一小学校へと通った道の、あの店この店も、その多くは無くなつてしまった。少しばかり性に目覚め、『プレイボーイ』という刺激的な雑誌がクルクル廻る棚に置かれてあった、あの店は…。ハムカツを買い喰いするのが楽しみだったあの店は…。そういえば、学校の脇にあった大一堂も、少し前から店を開けなくなつてしまつたなあ。

でも、今でも大井第一小学校は、あの時と同じに在る。やはり通つた「あけぼの幼稚園」とペアで、いつもそこにある。勝又先生、室橋先生、関根先生と、六年間の担任の先生方のことは、今でも思いだす。あの桐の木はまだあるのだろうか。プールに尖つた葉を降らせたあの木は、残つているのだろうか。前を通りすぎるだけで確かめもしないのだけれど、初詣での行き帰りに、ここでひと時を過ごしたという穏やかな気持ちで甦るのは、幸せな時間だったこととの証なのかもしれない。

まだ寺子屋だったという曾祖父の時代から、大井第一に学んできた我が家は、甥や姪で五代目を数えた。もう上の二代はこの世にはいないけれど、どこか大井という地の、そして大井第一小学校という学び舎の、暖かな空気を吸って生きてきたことを誇りに感じている。

同期会クラス会だより

昭和13年卒、同期会

昭和13年卒 佐々 峰子

一年おきに開く同期会も、平成16年11月6日(土)で第9回となりました。約20年続いているという事です。今振り返ってみますと、中心になつてお世話をしていただいた仁木勇夫さんを始め、沢山の幹事の方々のお陰と、心からお礼を申し上げたいと思います。特筆すべきは、その都度近況や思い出等々各人各様に下さる返事を、立派な「おたより集」にまとめ、皆に残して下さいました。大変な労力と頭が下がります。何てすごい同期生なんだろうと今更ながら誇りに思っています。感謝！感謝！です。

20年前には大会場でないとい入りきれなかつた大人数も、当り前とはいえ、今回の第9回の出席者は男性9名、女性11名、まとまりのよい、さびしい同期会となつてしまいました。今迄は男女それぞれに円卓を囲み、お行儀よく座つて何となく不完全燃焼気味で終つていた会が、皮肉な事に今回はおどろく程盛り上がり、楽しく場所を移動して、あちらこちらで話に花が咲きました。和やかな雰囲気の中で、午後のプログラムを進めていいのか、折角の空気をこわしたくないと、一瞬思つた程でした。

そうした余韻を引つ張り乍ら旧友の思い出話や、同期生の小学4年当時の作文をこつそり用意し、突然ご本人に朗読してもらつたりと……小学4年生の書いたとは思えない素晴らしい作文に、神妙な顔、戸惑う顔、驚く顔、感歎する顔、それぞれ思い出にどっぷり浸つている中、予定の時間は容赦なく過ぎて恒例の小学唱歌の合唱の時間。今回は松崎滯子さんの用意して下さいました「冬景色」と我々の知らない「大井第一小学校校歌」です。「冬景色」は小学生の気分になつて声をはり上げて歌いましたが、校歌は何度かテープを聞き、やつとの思いで歌い終えました。とても感動的でした。再来年なんて云うと鬼が大笑いするでしょうが、「傘寿同期会」を開く大きな目標を抱いて、又元氣に再会を祈りつつ解散しました。

同期会で得た思い出の数々は私の心の中がかがやいています。

(大森東急インにて)

大井第一小学校同期会だより

昭和17年卒 中村 隆英

恒例によりまして、今年も私共昭和17年卒業組の集まりが5月10日一ツ橋の如水会館で開催されました。

昨年の5月の集まりでは、30名を越える出席(私は昨年は病欠でした。)でしたが、今年には26名に減りました。70才前後の頃は40名近くの

出席でしたが、ここ一二年で急に出席数が減りました。やはり年令でしようか。病欠の方が多く見受けられます。

どうぞこの会報を読まれて、出席希望の方々は本紙最終頁の同窓会事務局宛御一報下され度く(名簿完備してあります)皆々様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げます。

幹事・松組 月森 明

竹組 大谷 正夫

梅組 秋山(高林) 陽子

雪組 愛屋(伊林) 典子

昭和19年3月卒同期会開催報告

昭和19年卒 三谷 正夫

平成16年11月20日に、卒業60周年記念の同期会を、大森東急インで開催した。松組9名、竹組7名、月組8名、梅組7名、雪組9名、計40名が参加した。

初めに全員で記念写真を撮り、各組毎5つのテーブルについて、乾杯で会を始めた。会はずこぶる盛り上がりを見せて、各組の枠を越え、席を離れて話が弾む者も多かった。私達が卒業した時は、すでに戦局が傾きつつあった時期で、強制疎開などで卒業して間もなく大井を離れた者も多く、60年ぶりの再会を喜び合った者もいた。

歓談つきぬうちに、定刻近くになり、思い出の小学唱歌、“故郷”“朧

月夜“冬景色”を合唱し、次回まで全員が元気でいることを約して、楽しい3時間を終わった。

六年竹組、勝手に集まろう会

昭和37年卒 園 文博

小学校時代の事は、今まで気にはなっていたのですが、きっかけが無かったせいか誰も音頭を取る人がいなかった事で、今日まで来てしまいました。

42年振りのクラス名簿には、たった2名しか記載されていませんでした。ここからアルバム住所と大井町に住んでる友人を手掛りに、四十七人中二十一名まで消息が判るようになりました。



残念ながら恩師の村田(斉藤)チエ先生は3年前にご逝去されていました。

平成十六年十二月五日、クラス会を大井町の喫茶「プロント」にて行いました。当初の予想では良くて4、5人との思惑が、あれよあれよと十人まで膨れ上がりました。無邪気なあの頃の童心に戻っての一時をみんな楽しんで過ごしました。

『振替用紙の通信欄より』

○91才になりましたが、今でも学校をなつかしく思っております。昭和27年に住みなれた家をはなれて、夫の勤務地に転居し風光美しく富士山の見える清水港に居をきめました。学校時代には受験勉強で円応先生(男)にお世話になり、お茶の水付属高女が目標で努力し合格の日は大井先生(女)が喜んで下さいました。

(T14卒 塩谷百合子)

○同窓会運営の皆様いつもありがとうございます。昭和八年に卒業しまして83才になりました。お若い同窓生の皆様、お元気で。

(S8卒 梅組 生沼 静子)

○昭和11年卒以前の方の近況の記載のない会報を読んで今更乍ら我が八十才を痛感致しました。私達の時代の第一の校風も先生も生徒もすばらしかったと自負しています。現在はどうな状況でしょうか。

(S11卒 雪組 磯辺 澄子)

※第七号の校長先生の文をお読みになると現況がわかります。(編集部より)

○会報六号を有難く拜見いたしました。いろいろな世代の方が寄稿され、号を重ねる毎に充実してきて嬉しく思います。

(S13卒 竹組 荒木田清瀬)

○会報六号ありがとうございます。懐かしく読ませていただきました。皆々様のご健康をお祈りいたします。

※同様の便りをS13卒 雪組 加藤普子様、S16卒 松組 小原 卓様、S16卒 雪組 石丸 典様より頂きました。

○いつも有難うございます。桜の季節には、あざやかに当時の学校の風景が思い出されます。

(S15卒 梅組 佐藤二美子)

○六号ありがとうございます。私共のシンボルの木はヒマラヤ杉です。切株の写真を見て多分一番左かな、と思いましたが。切株をとっておいて下さるなんて感動しました!!行ったら必ず見ます。

(S15卒 梅組 田中 和子)

○会報六号を拝見し夢見るような歳月を思い返しています。いい学校でした。

(S8卒 松組 西川 晃平)

○卒業以来66年を経過。感無量の一言です。有限の生命を楽しく。

(S13卒 月組 榎本 勉)

○よい伝統は守り育てて下さい。少な

い額ですが今年も会費を送ります。

(S 15卒 松組 西川大二郎)

○会報毎回楽しみに拝見しております。残念なのは当然ながら私共の先生のお名前が見当らず時の流れを感じます。

(S 19卒 梅組 今成 郁子)

○S 11の梅組で登録していただける方々のお名前を知りたく思っております。長い年月の果ての貴重な情報です。

(S 11卒 横田 弘子)

○いつも会報をお届け下さいますありがとうございます。遠い昔を想い、そして現在の学校の様子を感じて楽しく読ませていただいております。

(S 13卒 梅組 丹羽 敏子)

○役員の方々いろいろありがとうございます。今も優秀な母校の情報を聞く事が出来て、嬉しく思っております。

(S 12卒 月組 境野 敏子)

○S 13年梅組、園城寺先生のクラスに入学。16年3月で転校しましたが、その当時の方のクラス会にも入れていただき1年から3年までの楽しかった学校生活を思い出深く生きております。

(S 19卒 月組 山内 由子)

○18年卒の岡田氏が記していらつしやいました正しい姿勢。私も担任の(故)岩波先生に倣けられ、今もその教えは生き続け子供や孫達にも伝承しております。今の

第一はどうでしょうか。6号の先生方、卒業生の具体的な文、何度も読み返して感動にひたりました。

(S 17卒 雪組 橋本 貞子)

○平成15年10月25日、大森東急インで同期会が開かれ楽しく思い出話に花を咲かせました。

(S 19卒 松組 大谷 忠夫)

○ヒマラヤ杉が枯れましたか。とても残念。昭和20年代は教室がたりない時代、あの木の下で勉強をしました。とても懐かしいです。今では考えられない事です。

(S 24卒 松組 中村 光伸)

※同様の便りをS 25卒 梅組 吉村陽子様より頂きました。

○会報初めて読ませて頂きました。写真を見て懐かしく嬉しく思い、次号を楽しみにしております。

(S 26卒 松組 高村かほる)

○いつも懐かしく拜見。人生半ばを過ぎた現在だからこそ、大井第一小学校“を誇りに思えるのかもしれません。

(S 27卒 竹組 小林 昌子)

○1・2年、3・4年、5・6年とそれぞれの先生と共にクラス会をやっています。それだけに第一小学校のすばらしさが、”わかる”と言うことでしょう。

(S 30卒 松組 中村 光恵)

○私達は昭和24年まだ敗戦まもない頃、入学し2部授業でした。その頃から「大井第一は品川の学習院」と言われる名門校で今のよう

「お受験」とかいわれない時代でしたがクラスでは何人も国立、私立中学に入学しました。

(S 30卒 松組 高野 路子)

○第6号で初めて東京で受け持つて下さった迫田先生。お元気で漢検で頑張っているの事、とても懐かしく、私も還暦になりましたが、パワーを頂きこれからは頑張らねばと思えました。

(S 32卒 雪組 中島 紘子)

○転居しましたので住所変更をよろしく。迫田先生の記事には胸が熱くなりました。先日TVで先生にお目にかかり、よけいになつかしく拜見しました。

(S 32卒 月組 新井 清子)

○楽しく読ませていただいております。大井第一小学校は単に母校と云うばかりでなく出身である事を、皆誇りに思っています。編集委員の方に御礼申し上げます。

(S 33卒 松組 堀川 信子)

○会報6号を見て迫田先生のお名前を発見し、とても懐かしく思いました。1・2年の担任で大好きな先生でした。それから樹木と言えば藤棚を思い出しますが、今もあるのでしょうか。

(S 41卒 梅組 斉藤 正江)

※あります。毎年、美しい花を咲かせています。(編集部)

○3・4年でお世話になりました北川先生、5・6年の守田先生の原稿を読ませていただきなつかしく

思いました。ありがとうございます。

(S 40卒 竹組 小笠原輝美)

○6号で音楽の森下先生による百周年祝歌にまつわるお話を読み、とても懐かしく思いました。今でも歌えます。ピアノの伴奏もさせていただきました。

(S 51卒 月組 納谷 陽子)

○野々山先生、お元気で何よりです。この春、娘が第一小に入学します。親子で130周年を祝いたいです。

(S 54卒 月組 三石 泰樹)

○平成16年4月から大学生です。大井第一の思い出はいつでも輝いています。来年あたりに同年同窓会ができると思います。

(H 10卒 竹組 御手洗由佳)

○大井第一小学校を卒業して一年が過ぎますが、良い先生と友人に恵まれて勉強したり遊んだ思い出は大事にしています。

(H 15卒 竹組 御手洗茂樹)

第5回定時総会のお知らせ

日時 平成17年4月23日(土)

午後2時

場所 大井第一小学校

1、事業報告及び収支決算の承認

2、事業計画及び収支予算の承認

3、役員改選の承認

4、その他本会の運営上特に重要な事項

同封の振り込み用紙内の通信欄にて出欠席のご返事をお待ちしています。

平成15年度 収支決算報告書

収 入		支 出	
14年度より繰越	3,128,404	会費振込手数料	70,260
会費入金 (15年分)	1,009,000	会報関係 (印刷費・第6号分)	850,960 (430,326)
(16年分)	768,000	(発送費・)	(420,634)
預金利息	96	集会費	12,546
14年度卒業生入会金	30,600	通信費	19,422
預り金	1,000	その他経費	62,100
		預り金	1,000
		次期へ繰越	3,920,812
計	4,937,100	計	4,937,100

諸勘定残高 平成16年4月12日
 普便貯金 (総合) 2,620,694 上記の通り相違有りません。
 郵便貯金 (振替) 1,227,440 同窓会 会計 宮内 利雄
 現金 72,678 帳票・領収証書等監査の結果正当に処理されているものと認めます。
 同窓会 監事 小林 昌信
 飯田 るみ

平成16年度 収支決算中間報告書 平成16年11月20日現在

収 入		支 出	
15年度より繰越	3,920,812	会費振込手数料	24,150
会費入金 (16年分)	681,000	会報関係 (印刷費・第6号分)	850,960
寄付	10,000	(発送費・)	
預金利息	106	集会費	1,780
		通信費	6,830
		名簿訂正加除他	126,000
		プリント	26,250
		その他経費	22,527
		繰越金	4,404,381
計	4,611,918	計	4,611,918

諸勘定残高
 普便貯金 (総合) 2,620,800
 郵便貯金 (振替) 1,756,290
 現金 27,291
 計 4,404,381

投稿のお願い

大井第一小は、長い歴史に支えられ、良き伝統が脈々と流れ、後輩達に受け継がれています。しかし、時代背景や世相の違いにより、思い出も異なるものをお持ちでしょう。「文字」にして残しておきたい思い出等がありましたら、投稿をお待ちしています。

10月30日までに、郵便、Eメールで、森または松本宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸費用がか

かります。平成15年の会費納入者は八〇〇名で約七〇〇〇名に第六号会報を送ることができました。これからも安定した同窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円
 同封の振込用紙をご利用頂き、五月末までにお振り込み下さい。

名簿の資料提供にご協力を!!

(新住所・改姓名をお知らせください)

会報を通じ、より大きく同窓の輪が広がることを願い、正確で充実した資料づくりを目指しています。毎年、相当な数の宛先不明の会報が

戻ってきます。名簿委員会では、会報をお送りするため、「個人情報保護に関わる基本方針」に則り、同窓会員の皆様の自宅住所・電話番号の個人データを厳重に管理し、保持しています。転勤、結婚、転居などにより変更となる場合には、事務局までお知らせください。

同期会・クラス会への支援について

開催の際にご連絡をいただければ、同窓会(名簿委員会)で把握している住所リストをシールにてご提供いたします。事務局までお知らせください。

物故者

平成十六年
 黒田 今子先生 八月
 木村 孝一先生 十月
 斉藤 晴光先生 十一月
 謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

大井第一小学校は、今年創立130周年を迎えます。編集という仕事を通して、大井第一小の伝統・すばらしさを改めて感じています。

これからもより良い会報にしていきたいと思っておりますので、皆様の御意

見・御要望お待ちしております。又、今回御協力頂きました皆様、心より御礼申し上げます。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願いいたします。

森 秀雄

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井一五三一九

TEL〇三―三七七三―五〇六

Eメール: hide@mori-shoukai.co.jp

松本 徳太郎

〒一四〇一〇〇〇四

東京都品川区南品川五―三二―一

TEL〇三―三四七―〇二八六

Eメール: mats745@cts.ne.jp

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井六一―三二

品川区立大井第一小学校

同窓会事務局

TEL〇三―三七七―一五二四〇

FAX〇三―三七七―一五三四八

http://www1.cts.ne.jp/oiichi/

編集委員

昭和13年卒 松崎 滯子

昭和34年卒 森 秀雄

昭和35年卒 東山 周子(兼村)

昭和35年卒 上野 良子

昭和35年卒 松本徳太郎

昭和42年卒 井上 幸子(山崎)

昭和49年卒 三戸 美子(山口)